

## 《稲梓小学校》

- ・地域の人材や教育資源を生かした豊かな体験活動ができ、ふるさとの良さを実感できる子供が多い。
- ・グローバルシティプロジェクトの補助金が拡大し、活動の充実が図られた。
- ・複式学級解消のための市教諭の配置により、学年に応じた学びが保障されている。
- ・個別最適な学び、協働的な学びの実現のためにICT機器の活用方法について、全職員で学ぶ時間を設け、活用方法に広がりが見られている。
- ・AIドリルの導入により、家庭学習にタブレット学習を取り入れた。また計画的に家庭学習に取り組む手段として、家庭学習の記録をタブレットで管理し始め、保護者にも活用について協力を呼び掛けた。
- ・保護者への説明会を行う場合(懇談会・宿泊体験等)に対面だけではなく、ZOOMも取り入れ、より会に参加しやすい選択肢を増やせた。
- ・CSコーディネーターの協力で、プール清掃に多くの大人の力を得ることができ、家庭・地域と共にある学校に向け、有効な手段の一つであると感じた。

## 《稲生沢小学校》

- ・縦割り活動(遊び、掃除など)を取り入れ、異学年との交流に取り組んだ結果、「他学年となかよくできている」と感じている児童、保護者、教員が多くなった。
- ・委員会活動など、児童からの発信で行う活動が充実し、自主性ののびを感じることができた。
- ・ロイロノートや電子黒板を使った授業が日常的に行われ、児童が自分の考えを表したり、友達と伝え合ったりする活動が充実している。
- ・支援員やSSS、学校図書館司書、ALT、コミュニティスクール推進委員、SC、SSWなど、さまざまなスタッフが関わってくださることで、児童の学習面、心身の面などでの育ちを多面的・多角的に支えることができている。
- ・校舎の老朽化が深刻である。

## 《白浜小学校》

- ・グローバルCITYプロジェクト事業の補助金を活用した地域のよさを味わう活動(学年ごとの“海と親しむ活動”など)や交流活動(ニューポート交流やカザフスタン・中国インターンシップ生交流など)、“心”で感じる活動(“いのちと夢のコンサートや玉川大学パフォーミングアーツプロジェクトなど)等、体験的な活動を通して豊かな表情が見られた。
- ・“スクールAI”(みんながく)については、モデル校として無償で使用している。ICT担当や興味を持った先生がオンライン研修に参加して、概要や利用方法、活用について説明を受けた。子供たちが自立して学習を進めるための一つのツールとして可能性があるため、2学期から試験的に活用を進め、その効果を探りたい。
- ・子供たちが生き生きと生活している姿が見られる。目に見える表れだけでなく、その子の心の内や家庭状況にも思いを馳せ、「わたしもたいせつ あなたもたいせつ」を合言葉に職員一同で子供たちを見守り、導いていきたい。

## 《浜崎小学校》

- ・グローバルシティプロジェクト補助金を活用し、どの学年も下田の豊かな自然、歴史、文化、産業といった資源を生かした体験活動を契機とする探究的な学びを展開することができている。実際に体験を通して感じたことを学びへつなげることができるため、下田を教材とした生きた学びができている。
- ・ICTの活用が進み、子供の実態に合わせ、理解しやすい方法で課題を提示したり考えを共有したりすることに効果的だった。言語活動では、自身の考えをまとめる際に特に効果的であった。書くことに苦手意識を感じる児童にとって効果的な表現ツールとなっている。
- ・しなやかさを大切にし、良さを認め合うことを目標に取り組んでいることで、子供たちは落ち着いて生活できている児童が多い。

## 《下田小学校》

- ・伊豆下田分校併設を生かした「共生教育」を推進している。下田小学校の強みは、伊豆下田分校の併設により、特別支援教育の視点を生かし、全ての子供を全職員で支え育てる「共生教育」である。伊豆下田分校教諭による出前授業や学校行事を通じた交流など、障害のあるなしに関わらず、どの子も同じ場で同じ学年で共に学ぶ機会がもちやすく、共に助け合い、支え合って生きていくことの大切さを学ぶ環境が整っている。
- ・小中学校グローバルCITYプロジェクト事業補助金を活用し、豊かな体験活動を実施することができている。全てのクラスにおいて、下田の豊かな自然を体験する活動を行うことで、子供たちは下田の魅力を感じ、語ることのできる表現力を身に付けることができている。
- ・ICTを効果的に活用し、授業改善につなげている。また、iPadのドリル教材を使用することで、個に応じた学習を進めることもできた。DXアドバイザーと気軽に相談することができ、これまで以上にICTを活用しやすい環境となった。

- ・相手のことを思いやり、やさしい気持ちで相手に接することができる児童が多く、授業を落ち着いた態度で受けることができている。
- ・「おはようございます」など、学校内だけでなく、地域の方とも気持ちのよい挨拶を交わすことができるようになってきている。

#### 《大賀茂小学校》

- ・学校教育目標の実現に向け、今年度設定した重点目標である「チャレンジしよう！」の実現に向け、児童も教職員も一丸となって取り組むことができた。
- ・黒船交流会を通して、開国のまちを実感できた。水兵さんから給食後にドッジボールがやりたいとの提案もあり、共にふれあう時間となった。
- ・児童がタブレットをスムーズに使いこなし、授業に取り入れる姿が多くの場面で見ることができた。

#### 《朝日小学校》

- ・黒船交流会では、積極的に交流しようとする姿が多くみられた。
- ・運動会では、地域・保護者など多くの方々の参加が得られた。また、授業参観などでも多くの保護者が来校し、熱心に参観する姿がみられた。
- ・1、2年生の野菜作りと販売実習、3年生の海亀学習と水族館見学、4年生の福祉学習、5年生の防災学習も外部(社協、危機管理局など)と連携しながら、市の予算や地域の方々に支えられ体験活動が充実している。
- ・教員のパソコンとインターネット環境が充実し、指導が向上してきた。

#### 《下田中学校》

- ・3年生が模範となる姿を意識して生活し、率先してその姿を示すことにより、下級生も導かれるように生活することで、全体としては落ち着いて新年度をスタートさせることができた。
- ・タブレットが学習用具の一つとして効果的に活用されている。学習や活動の場においては、タブレットが教員と生徒の情報共有のツールにもなっており、状況に応じて有効に活用されている。

#### 《下田認定こども園》

- ・ICTシステムを導入して2年目となり、少しずつ保護者、職員ともに使い方に慣れてきている。写真の販売を今年度より導入することができている。
- ・クラスごと子どもたちの興味や関心に基づきながら環境構成をし、遊びの充実を図ることができた。自分の思いを出しながら過ごせる姿がみられるようになった。

#### 《下田保育所》

- ・園生活に慣れて、安心して1日を過ごせるように、各クラスの担任がその時期の子どもたちの興味に添った環境づくりを行なっている。朝の登所時は、保護者と離れる時には涙を見せることがあっても、離れてしまえば、自分の遊びを楽しむことができている。
- ・下田保育所で過ごすことも最後となることを踏まえて、下田保育所だから行いやすい異年齢交流保育や園外に散歩で出掛けることを楽しんでいる。
- ・下田保育所の園舎の作りは給食室の様子を見ることが出来るので、連携が取りやすく、5歳児が給食の食材の準備を手伝ったり、夏野菜を育てたりと食育に関する活動ができた。

○各校・保こ園ともに、インフルエンザや新型コロナウイルス感染症による学級閉鎖、学校閉鎖はなく、大雨による休校は9/5の1日のみであった。各種行事・諸活動を概ね予定通り実施し、子どもたちが元気に過ごす姿が見られ、全体として落ち着いた学校・園生活を送ることができている。

○下田グローバルCITYプロジェクトによる、下田の豊かな自然を体験、味わうことができる地域での活動など、地域の方の力をお借りしながら充実した活動ができている。また、黒船祭交流会や英語力向上プロジェクトによる玉川大学交流、企画課が進めてくださったHELLO WORLDによるWorldClassroom、日本国際交流発展促進協会カザフスタンインターンシップ生との国際交流など国際的な視野が広がるような活動ができた。昨年度活発に行った上智大交流も企画課と連携して進めていきたい。

○各校とも、授業や家庭学習などのタブレット端末の効果的な活用が進められている。

○コミュニティ・スクールは中学校で3年目、小学校で2年目となる。下田中学校では、総合的な学習の時間を中心に地域と一体となって活動が進んでおり、ユニバーサルデザイン避難訓練は7/30カムチャツカ半島地震による津波警報時に役立った。小学校では、それぞれの地域の強みを生かし、各校の環境整備や体験活動等地域と連携した取組が進んでいる。

○保こ園では、クラスごと子どもたちの興味や関心に基づきながら環境構成をしたり、異年齢交流保育や園外に散歩で出掛けたりして、園児同士の関わりを大切に過ごすことができた。

○6月から暑い日が多くなり、特に7月からこれまで、WBGTをもとにした対応表をもとに各学校、保こ園とも体育や休み時間の運動、遊びなど、対応に苦慮しながらも熱中症対策を工夫した。特別教室、体育館等、子供たちの保育、教育活動が安全に行われるよう、可能な限り環境を整備していく必要がある。